



黒岩 美幸

これまでの道のり

中学の時に看護師になりたいと思い、高校卒業後看護学科に入り、さらに助産専攻科に進みました。産科病棟で3年余り助産師として働いた後、約5年間オーストラリアに留学し、メルボルン大学大学院の教育学部で英語を専攻し、その後、医・歯・健康科学部でウィメンズヘルス(修士)を学びました。

それまでの学習方法は教科書から学ぶことばかりでしたが、大学院では英語の論文に直に触れ、様々な研究があることに驚き興味を持ちました。

ウィメンズヘルスコースが日本でも開催されるということで同行帰国した際、ある教授から日本での実習指導や授業補助などの仕事をいただき、日本とオーストラリアを行き来しながら修士課程を修了し、帰国して日本で博士課程に進みました。

留学をきっかけに、ウィメンズヘルスという研究領域と日本での指導者に出会えたことが大き

研究テーマ (一言でいうと)

女性の健康に関連したことを研究しています。博士課程では低用量ピルを服用した女性の薬物代謝酵素活性変動について、日本で初めて個別に経時的に観察評価を行いました。女性の月経周期や妊娠期における薬物代謝酵素活性変動も観察・評価をしてきました。

看護学科
母性看護学
助教

自治医科大学卒業
東京女子医科大学
博士課程修了
博士(看護学)
2013年より現職

な転機となりました。この指導者が理事長を務める学会で、海外研修部を責任者として立ち上げ、研修のコーディネートや通訳・翻訳を行っています。研究者として海外にもネットワークを持つことができるようになりました。

大変だったこと

今まで看護とウィメンズヘルスしか学んだことのない私でしたが、博士課程では薬科大学との共同研究を行いました。薬学の知識が乏しく薬科大学の先生方や学生に教えていただきながら必死で学びました。実験研究をしたことのない私が見たこともない機器を操作し、ナノグラムという微量な物質を測定しました。新しい分野にチャレンジして行くことは毎日が緊張の連続でした。

研究を続けられた モチベーション

私の場合、指導者の存在が大きいです。博士課程の進学を勧めてくれたのも指導者で、丁寧にそして時には厳しく指導してくれました。育児休業を取得し、すっかり研究モードから遠ざかっていたところ、指導者から「産後の頭を切り替えて研究に復帰しなさい」と声がかかりました。出された課題を一生懸命にこなすうちに頭が少しずつ研究モードに戻ってきました。いつも私を研究に導き、引っ張ってくれる指導者がいてくれるというのは大きな励みです。

夫とは地域の合唱団での活動がきっかけで知り合いました。夫は家で仕事をしているので、家事を任せることができます。子どもが大好きで育児には私よりも積極的です。また、私の研究グループにも顔を出しているため、私がどんな人に囲まれて研究しているかを理解し、いつも応援してくれます。

研究の魅力、これからの夢

先行研究を見ながら何がすでに研究されているのかを知り、何が新しくテーマとなるのかを探る過程が一番ワクワクします。自分にどんどん新しい知識が増えていくのが楽しいです。多職種との共同研究を今まで行ってききましたが、違う職種の人たちと意見を交換しながら行う研究はとても刺激的です。今後は臨床と繋がった研究も行ってみたいです。今妊娠中なので元気な子どもをもう一人産み、新しい研究テーマを見つけ、女性が健康で幸せになれるよう、ずっと研究を続けていきたいです。

海外留学がきっかけで 研究者への道が拓き、自分の やりたいことに巡り会えた

未来の女性研究者への応援メッセージ

看護の領域はまだ研究されていないことが多く、
チャンスをつかみやすい

好きなことをやり続けていると素敵な出会いがあると思います。出会いがあったら尻込みをしないで踏み出してみてください。頑張っていると次の道が拓かれます。

今日の看護学は臨床力だけでなく高度な知識も求められてきています。まだまだ研究されていないことも多く、研究者の育成が待たれている領域だと思います。

これから研究者をめざす皆さんよりは少し先に歩いています。研究に困ったら相談してください。

